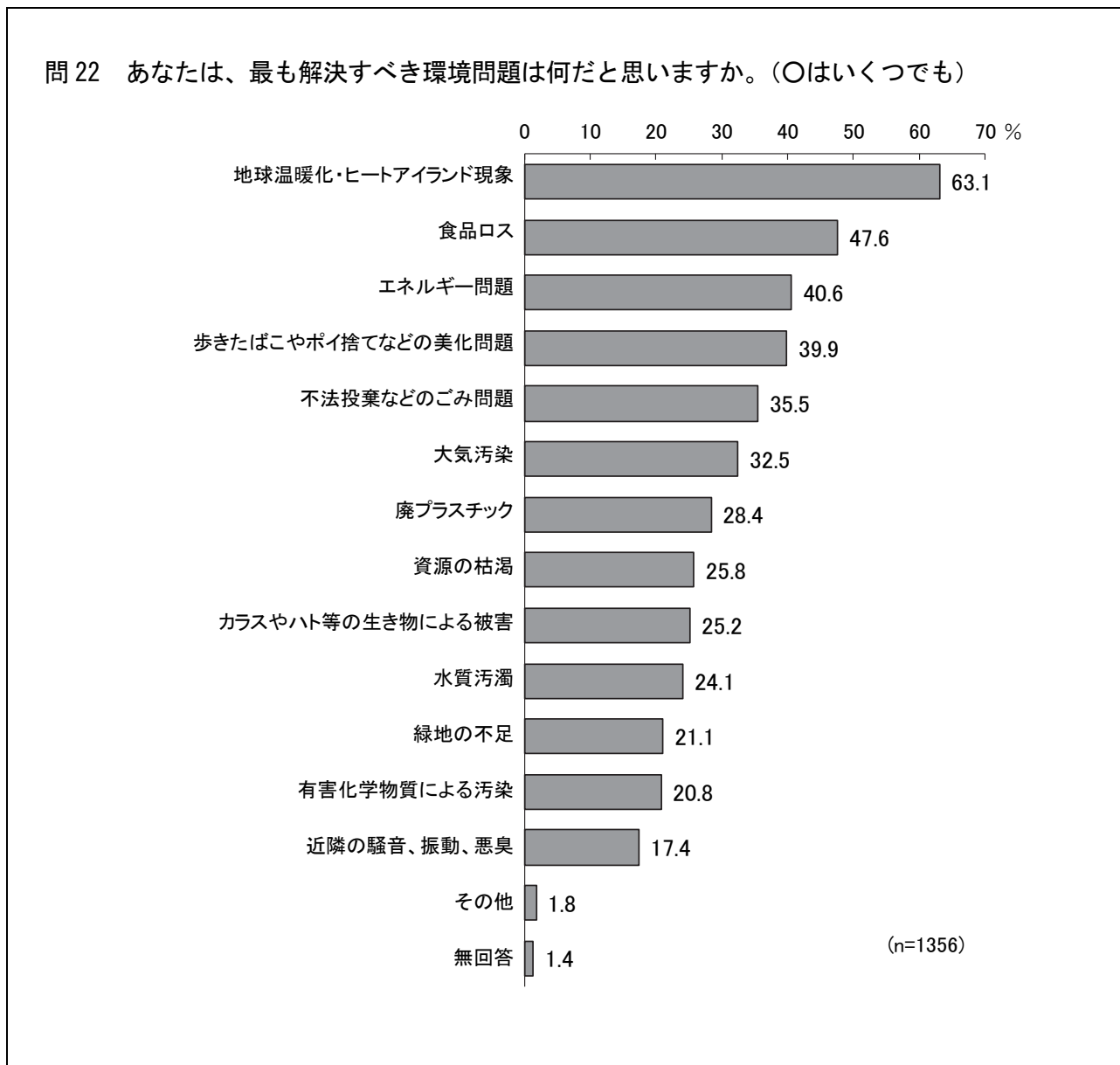


6. 環境問題

(1) 最も解決すべき環境問題

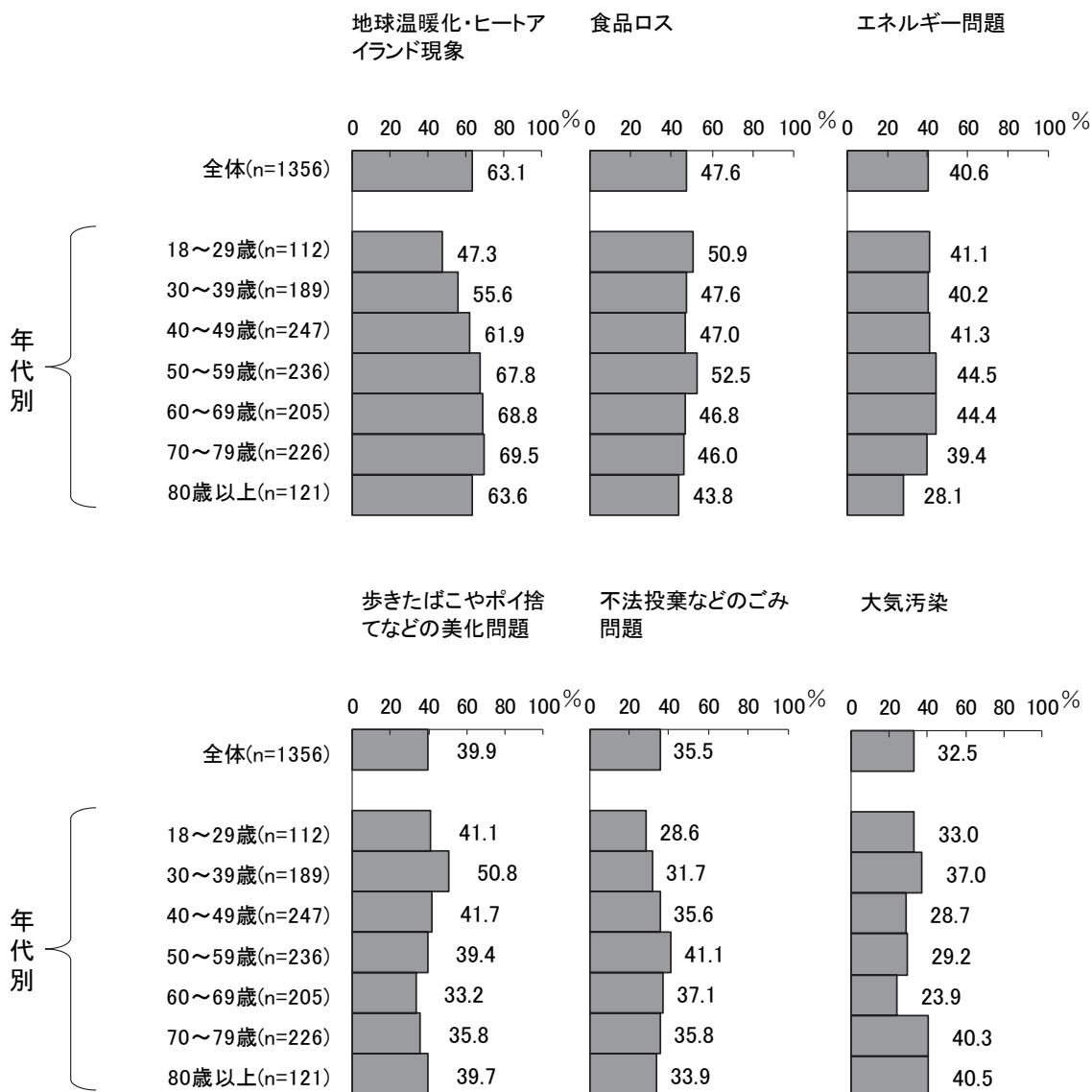
◇「地球温暖化・ヒートアイランド現象」が6割半ば近く



最も解決すべき環境問題について聞いたところ、「地球温暖化・ヒートアイランド現象」(63.1%)が6割半ば近くで最も高く、次いで「食品ロス」(47.6%)が4割半ばを超え、「エネルギー問題」(40.6%)が4割となっている。

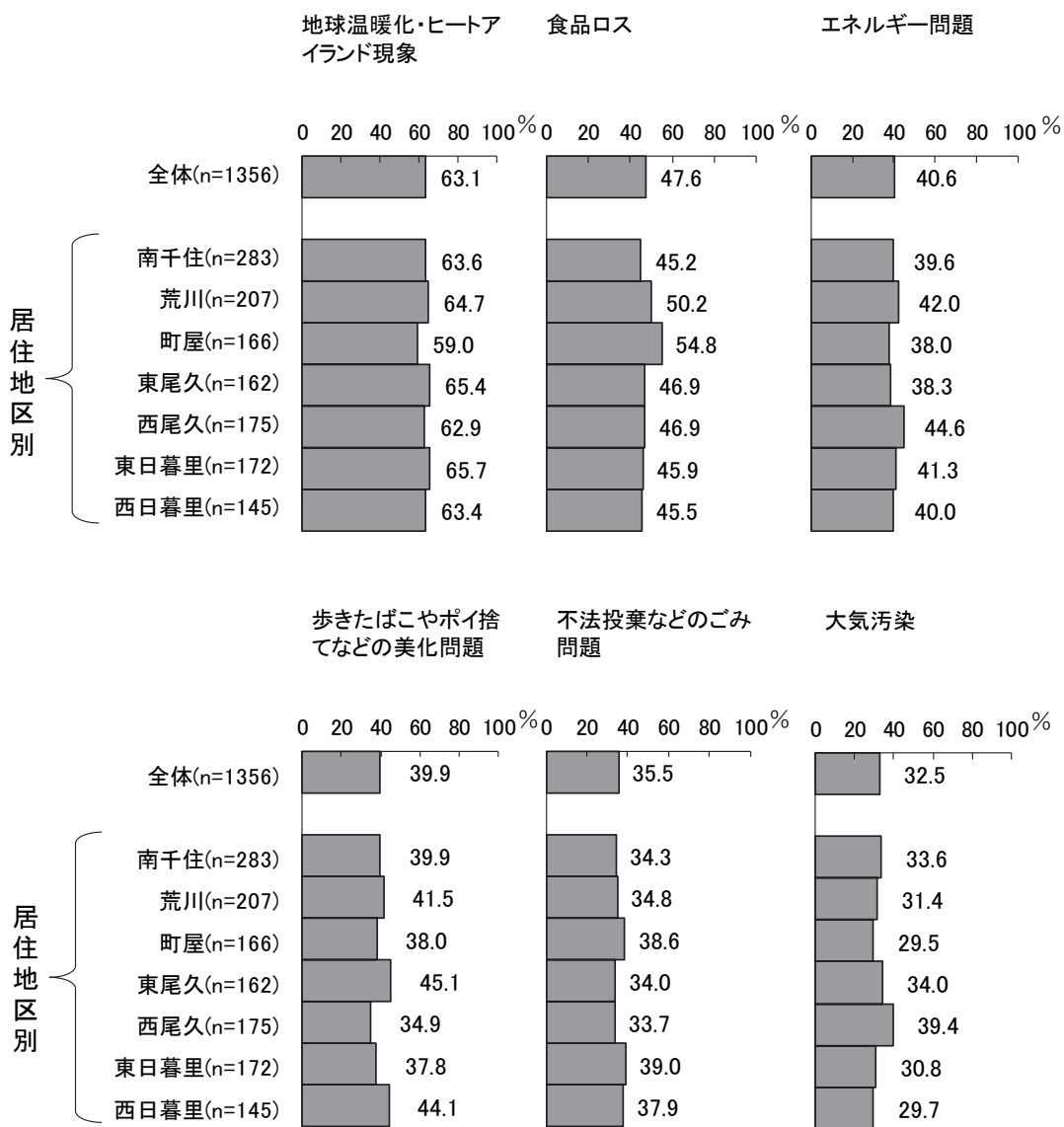
年代別でみると、「地球温暖化・ヒートアイランド現象」は、50～59歳（67.8%）、60～69歳（68.8%）、70～79歳（69.5%）で6割半ば以上と高くなっている。

最も解決すべき環境問題 年代別



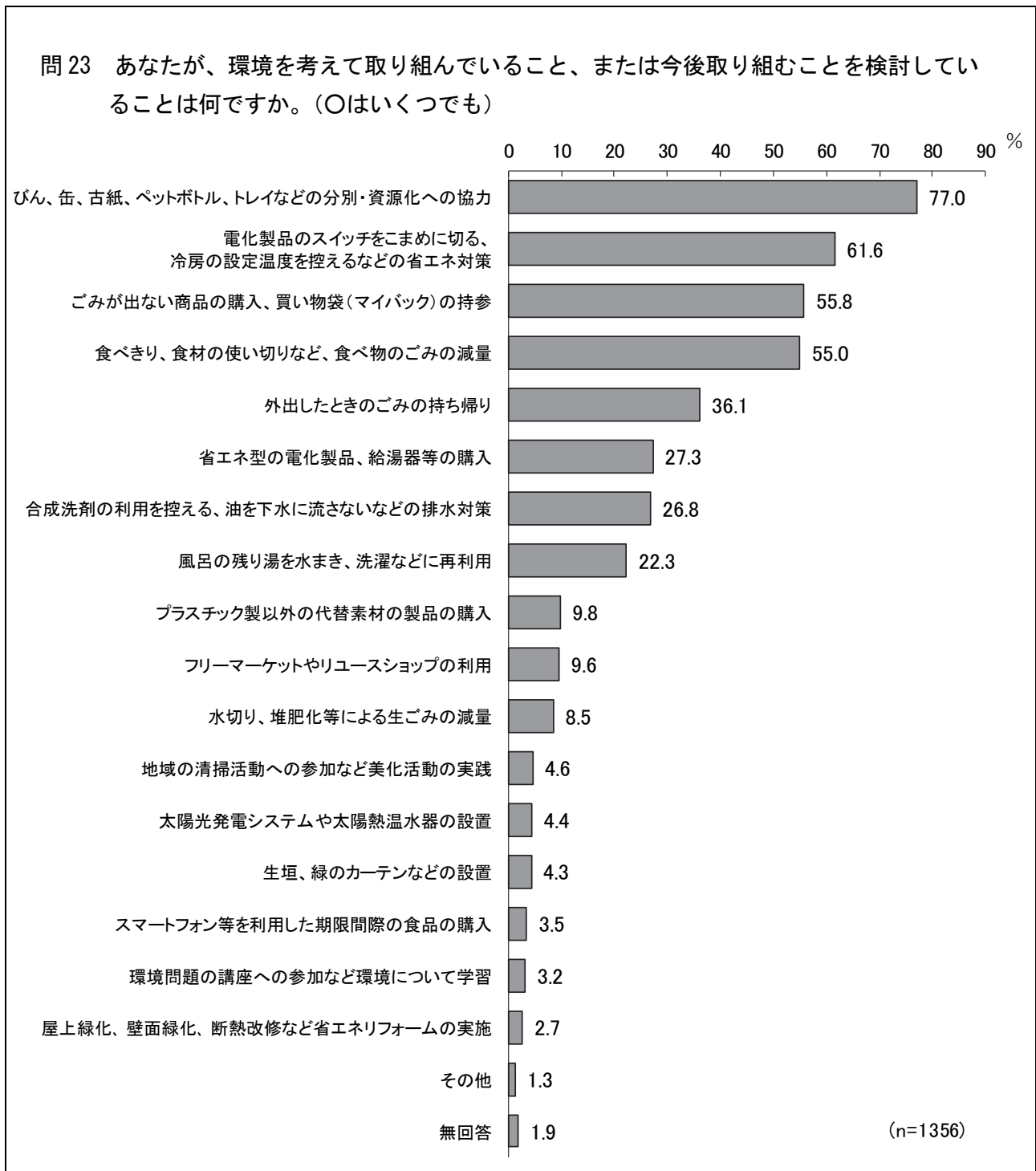
居住地区別でみると、「食品ロス」は町屋地区（54.8%）で5割半ば近くとなっている。

最も解決すべき環境問題 居住地区別



(2) 環境を考えて取り組んでいること、または今後取り組むこと

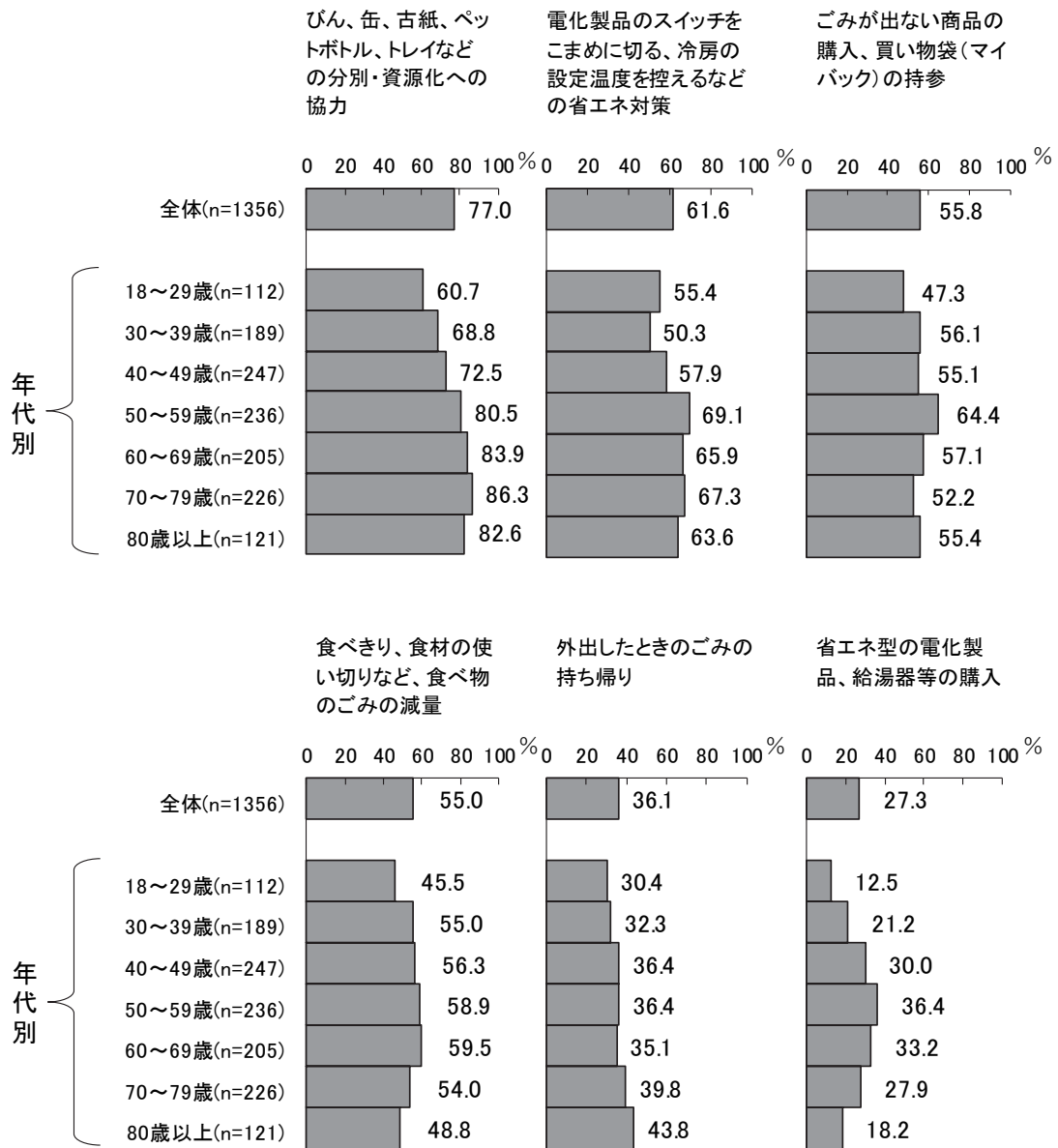
◇「びん、缶、古紙、ペットボトル、トレイなどの分別・資源化への協力」が7割半ばを超え



環境を考えて取り組んでいること、または今後取り組むことについて聞いたところ、「びん、缶、古紙、ペットボトル、トレイなどの分別・資源化への協力」(77.0%)が7割半ばを超えて最も高く、次いで「電化製品のスイッチをこまめに切る、冷房の設定温度を控えるなどの省エネ対策」(61.6%)が6割強、「ゴミが出ない商品の購入、買い物袋(マイバック)の持参」(55.8%)が5割半ばとなっている。

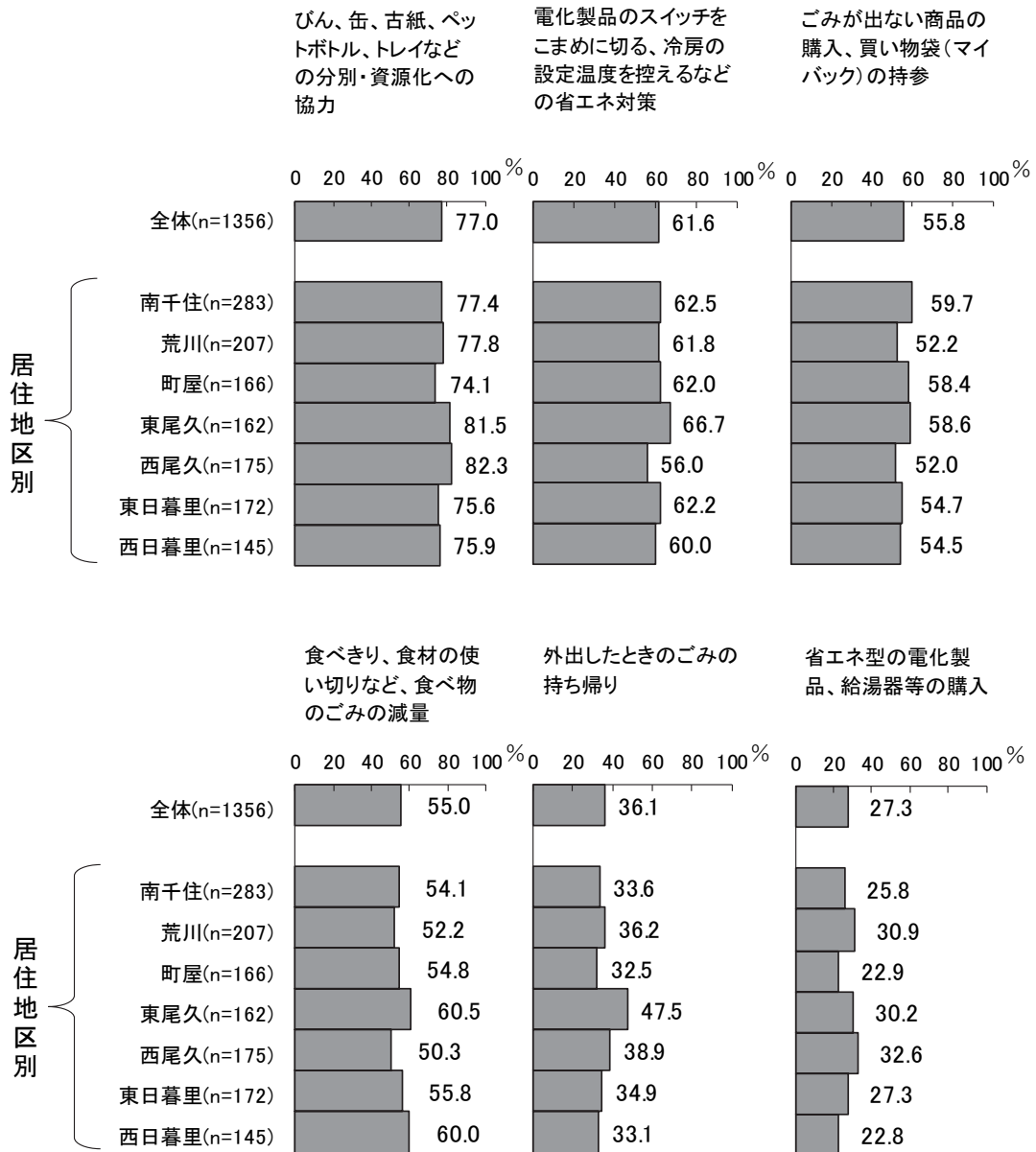
年代別でみると、「びん、缶、古紙、ペットボトル、トレイなどの分別・資源化への協力」は、全ての年代で高い割合を占めており、特に70～79歳（86.3%）で8割半ばを超えて高くなっている。

環境を考えて取り組んでいること、または今後取り組むこと 年代別



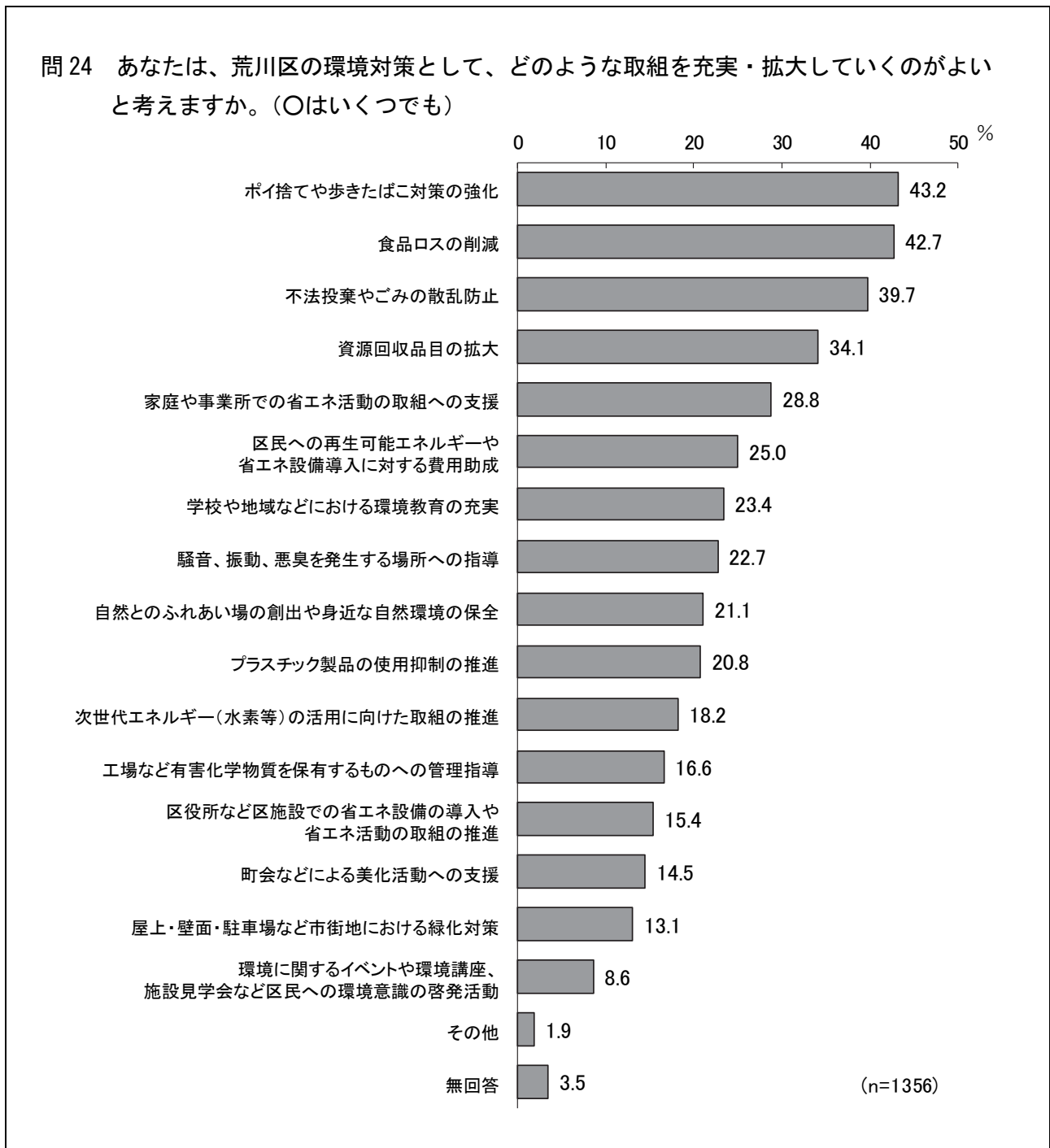
居住地区別でみると、「外出したときのごみの持ち帰り」は、東尾久地区（47.5%）で4割半ばを超えて最も高くなっている。

環境を考えて取り組んでいること、または今後取り組むこと 居住地区別



(3) 環境対策として充実・拡大すべき取組

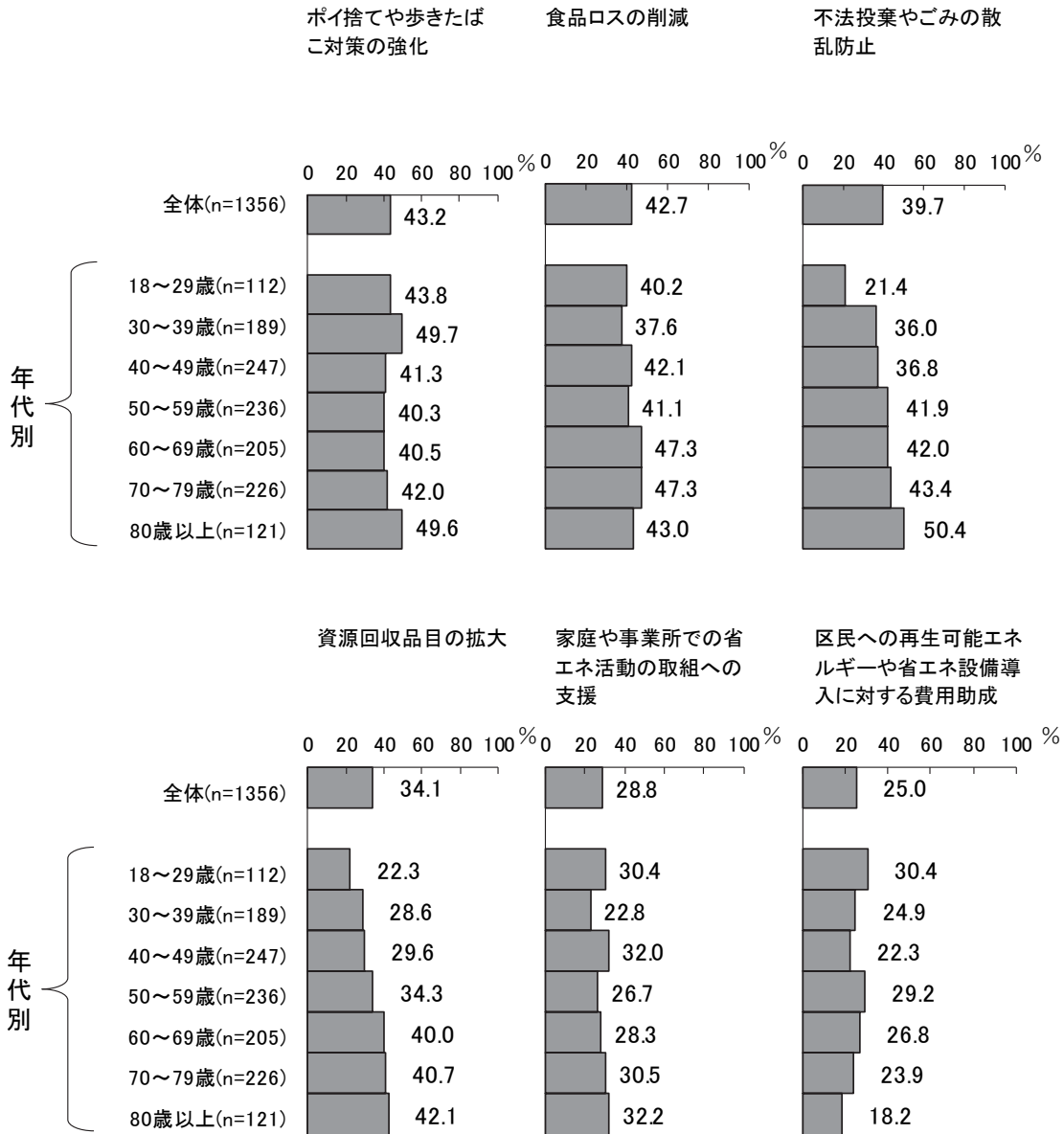
◇「ポイ捨てや歩きタバコ対策の強化」が4割半ば近く



環境対策として充実・拡大すべき取組について聞いたところ、「ポイ捨てや歩きタバコ対策の強化」(43.2%)が4割半ば近くと最も高く、次いで「食品ロスの削減」(42.7%)が4割強、「不法投棄やごみの散乱防止」(39.7%)が4割弱となっている。

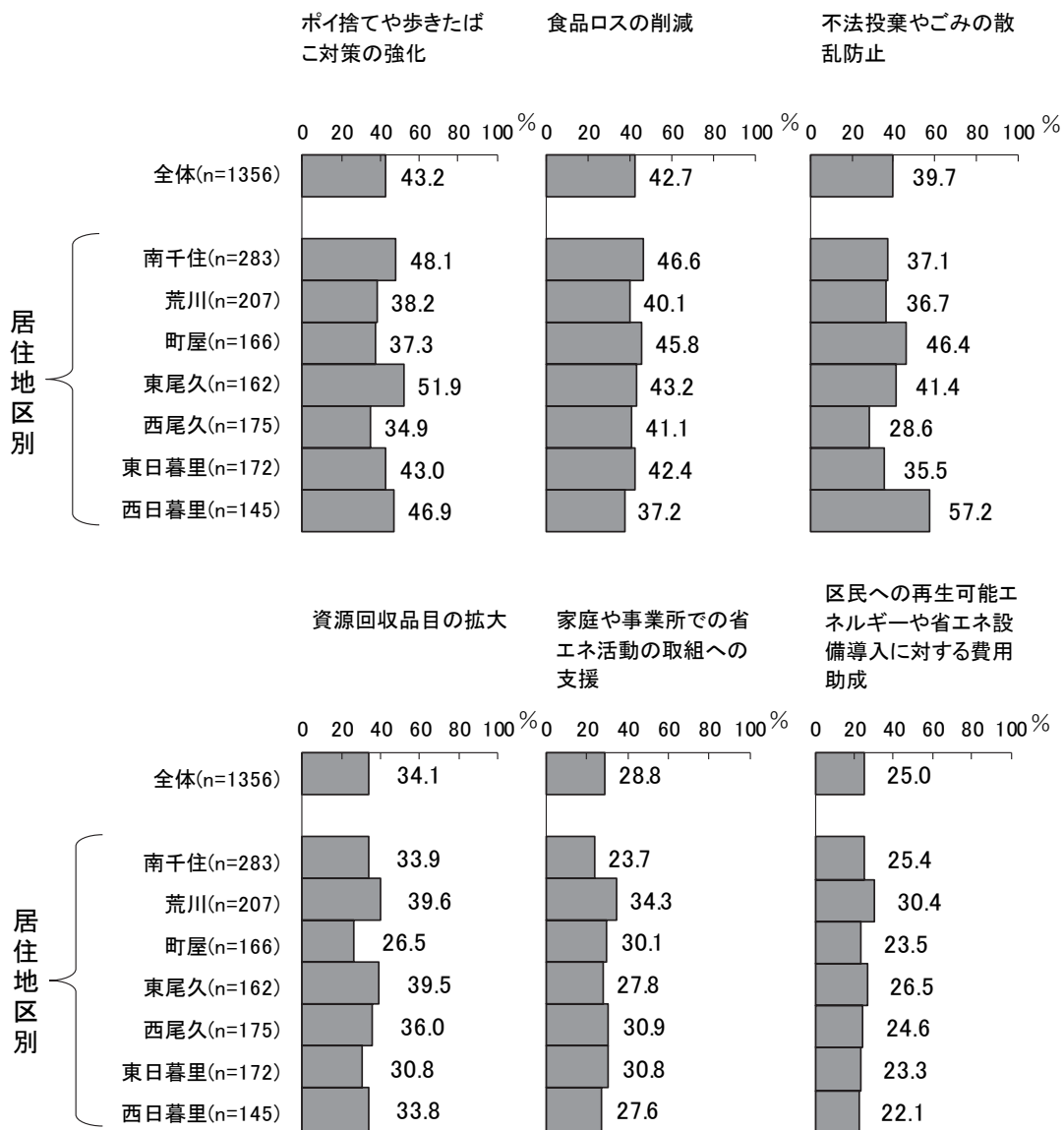
年代別でみると、「ポイ捨てや歩きタバコ対策の強化」は、30～39歳（49.7%）と80歳以上（49.6%）が5割弱と高くなっている。

環境対策として充実・拡大すべき取組 年代別



居住地区別でみると、「不法投棄やごみの散乱防止」は、西日暮里地区（57.2%）が5割半ばを超えて高くなっている。

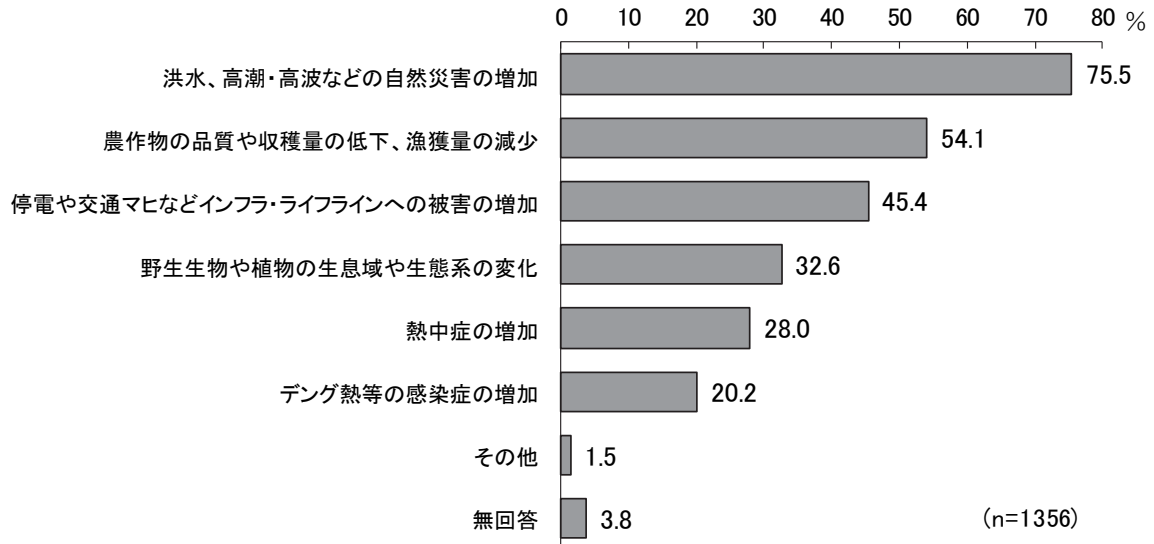
環境対策として充実・拡大すべき取組 居住地区別



(4) 最も深刻だと思う地球温暖化による影響

◇「洪水、高潮・高波などの自然災害の増加」が7割半ば

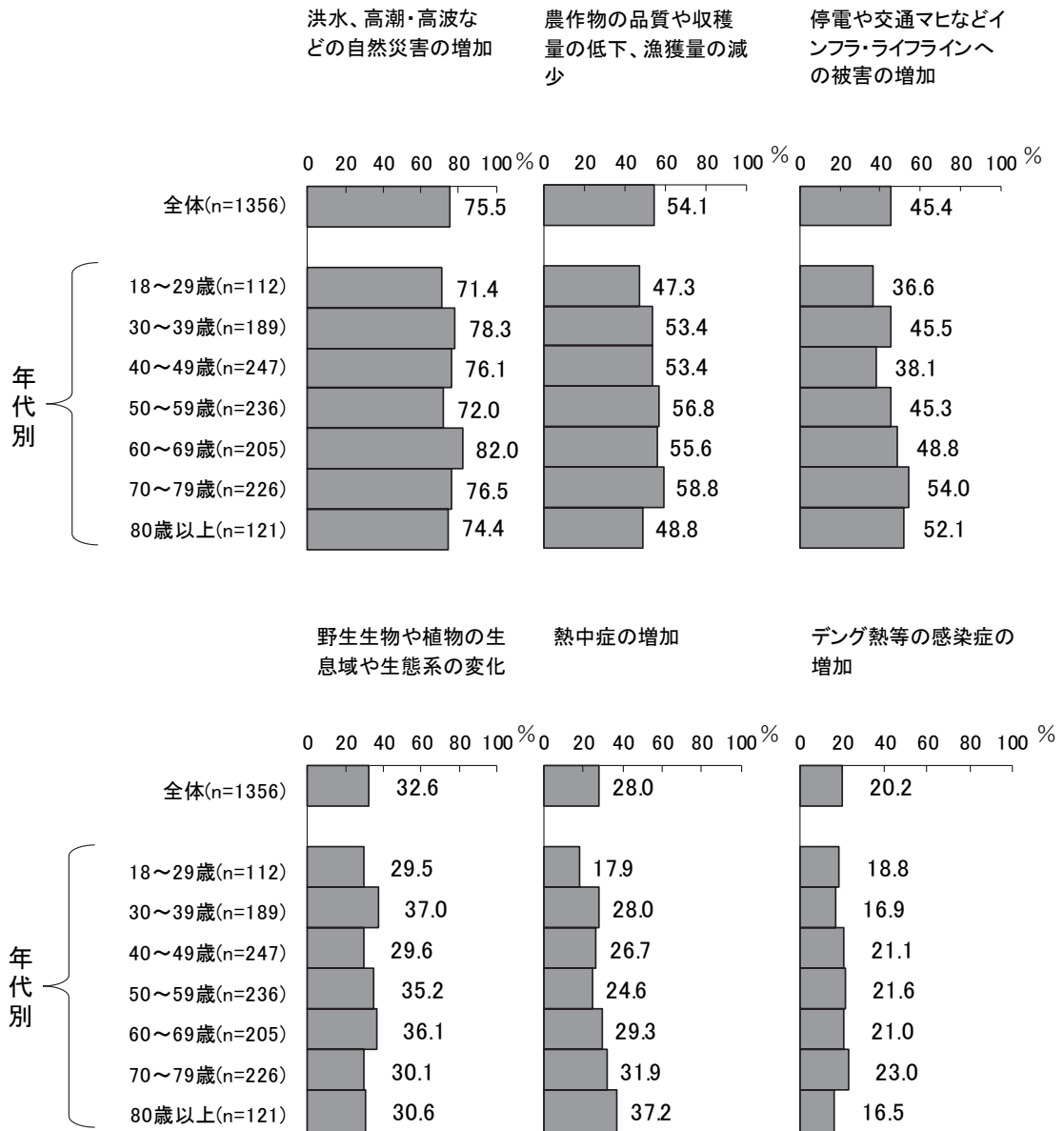
問 25 近年、地球温暖化に伴う気候変動によって様々な影響が発生し、またはその発生が予測されていますが、あなたが最も深刻である影響は何だと思えますか。(〇はいくつでも)



最も深刻だと思う地球温暖化による影響について聞いたところ、「洪水、高潮・高波などの自然災害の増加」(75.5%)が7割半ばと最も高く、次いで「農作物の品質や収穫量の低下、漁獲量の減少」(54.1%)が5割半ば近く、「停電や交通マヒなどインフラ・ライフラインへの被害の増加」(45.4%)が4割半ばとなっている。

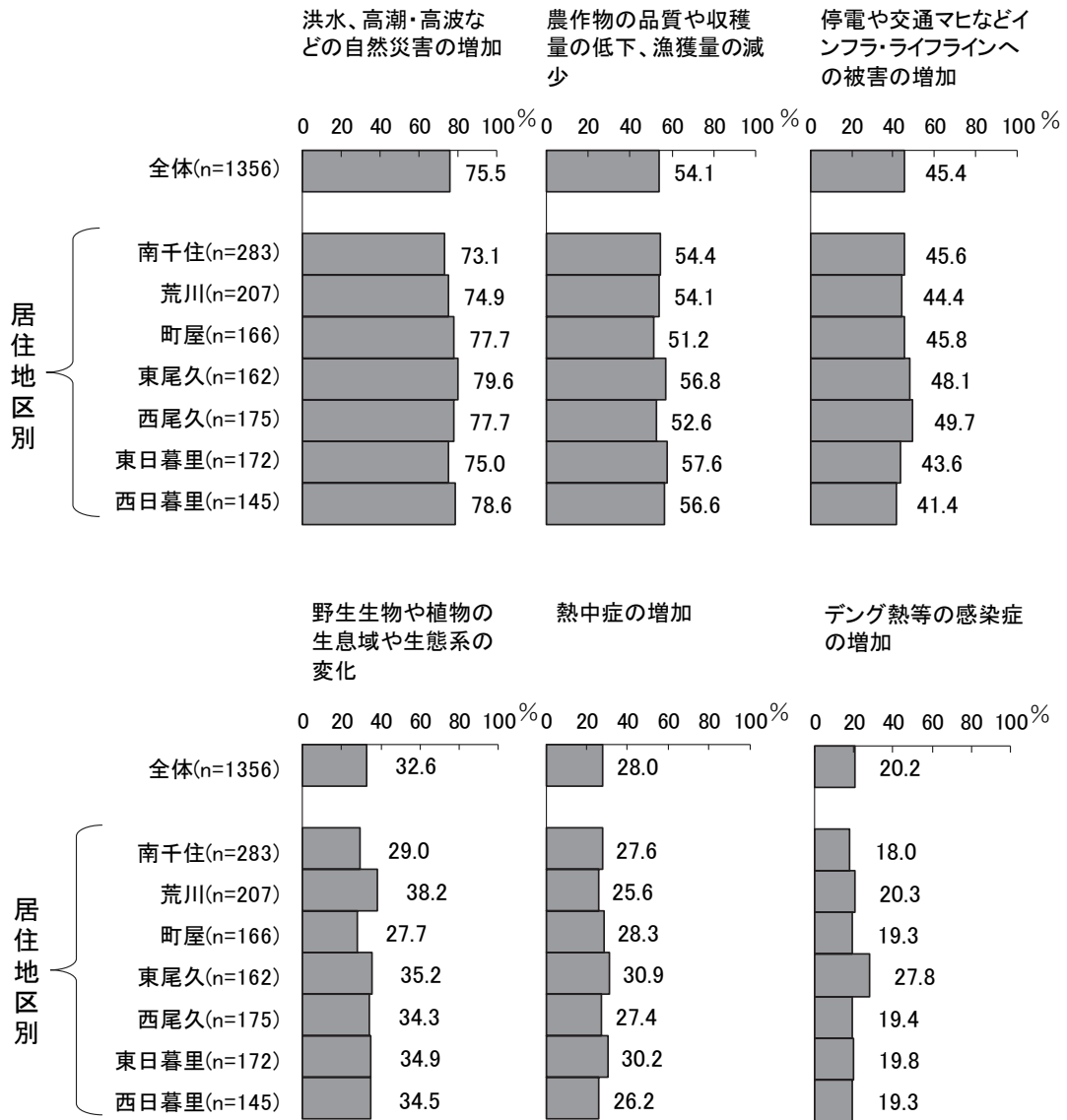
年代別でみると、「洪水、高潮・高波などの自然災害の増加」は、全ての年代で高い割合を占め、特に60～69歳（82.0%）で8割強と高くなっている。

最も深刻だと思う地球温暖化による影響 年代別



居住地区別でみると、「デング熱等の感染症の増加」は、東尾久地区（27.8%）で2割半ばを超えて高くなっている。

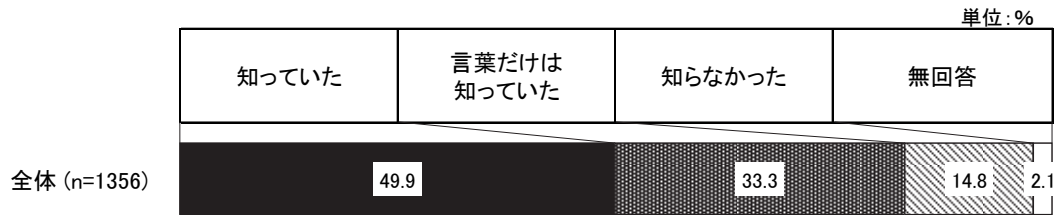
最も深刻だと思ふ地球温暖化による影響 居住地区別



(5) 「脱炭素社会」という言葉の認知度

◇ 「知っていた」が5割弱

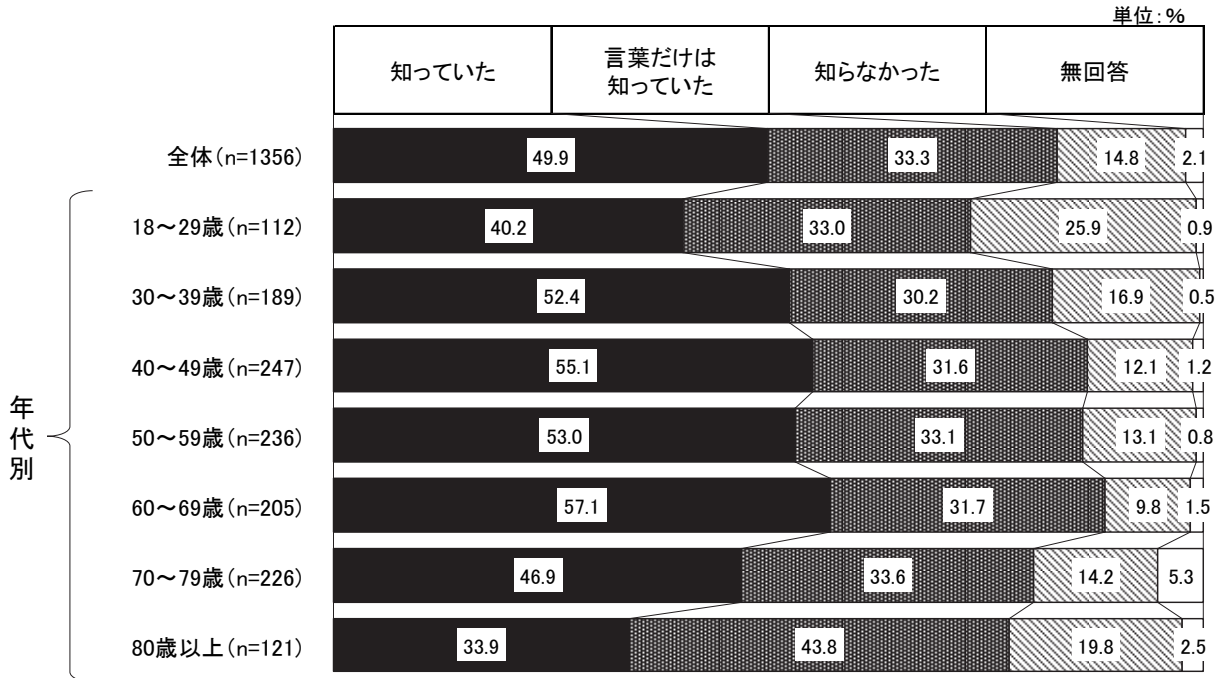
問 26 地球温暖化を防止するためには、「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭の取組が大変重要となりますが、あなたは「脱炭素社会」という言葉を知っていましたか。(○は1つだけ)



「脱炭素社会」という言葉の認知度について聞いたところ、「知っていた」(49.9%)が5割弱と最も高く、次いで「言葉だけは知っていた」(33.3%)が3割半ば近く、「知らなかった」(14.8%)が1割半ば近くとなっている。

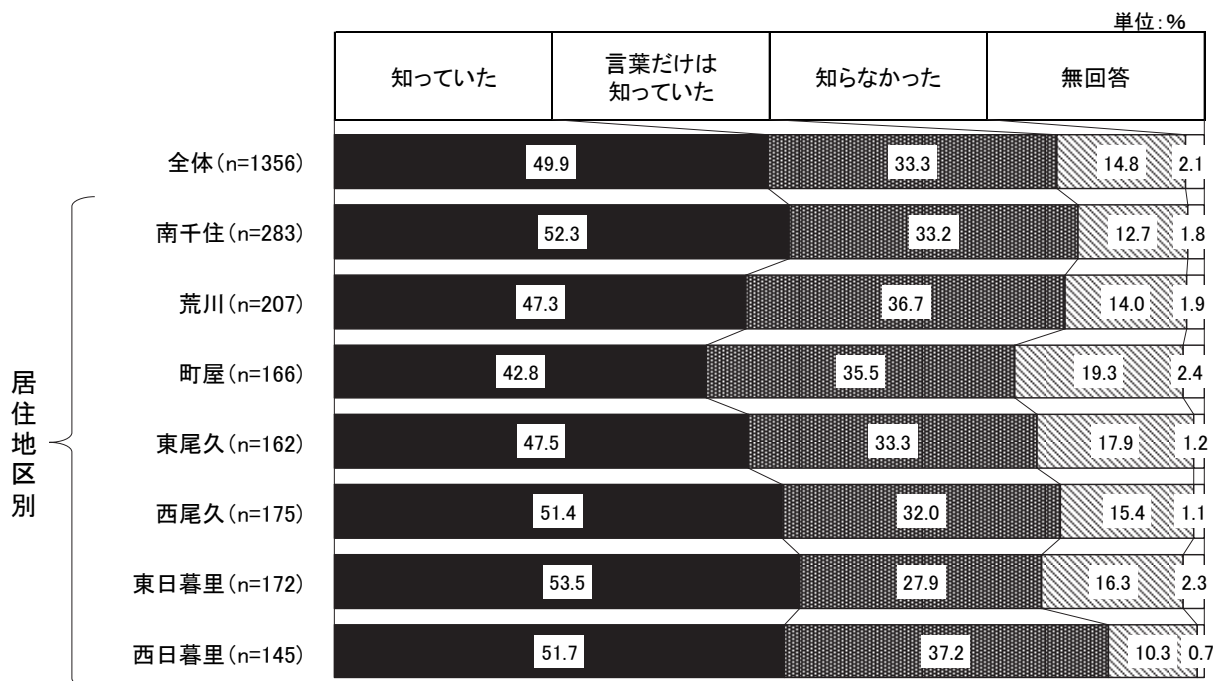
年代別でみると、「言葉だけは知っていた」は、80歳以上（43.8%）が4割半ば近くと高くなっている。

「脱炭素社会」という言葉の認知度 年代別



居住地区別でみると、「言葉だけは知っていた」は、西日暮里地区（37.2%）で3割半ばを超えている。

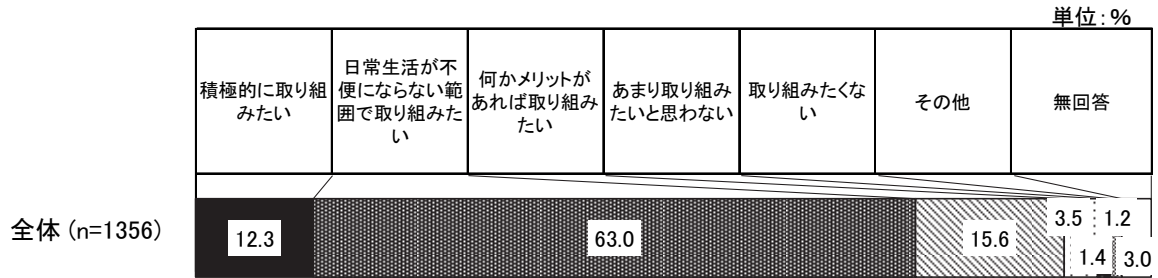
「脱炭素社会」という言葉の認知度 居住地区別



(6) 「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭での取組

◇ 「日常生活が不便にならない範囲で取り組みたい」が6割半ば近く

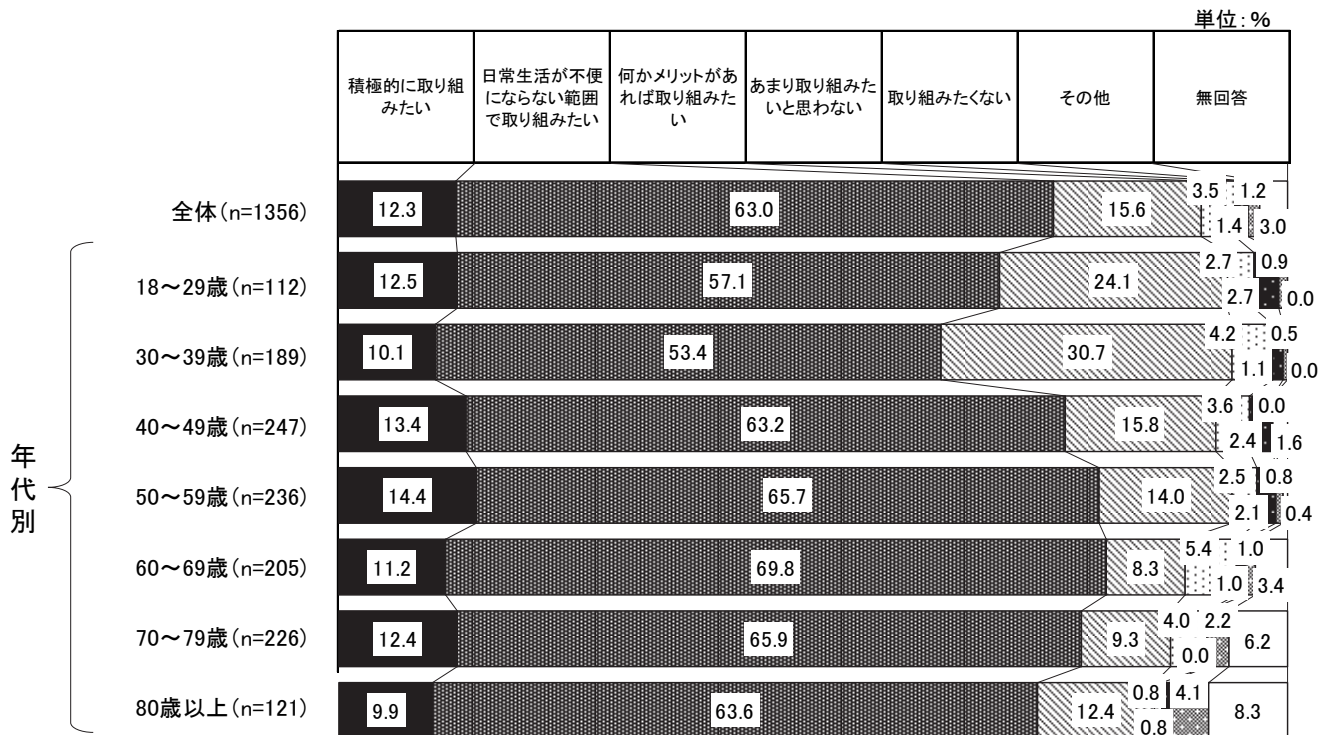
問 27 「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭での取組について、あなたの考えに最も近いものを次の中から一つお選びください。(〇は1つだけ)



「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭での取組について聞いたところ、「日常生活が不便にならない範囲で取り組みたい」(63.0%)が6割半ば近くと最も高く、次いで「何かメリットがあれば取り組みたい」(15.6%)が1割半ば、「積極的に取り組みたい」(12.3%)が1割強となっている。

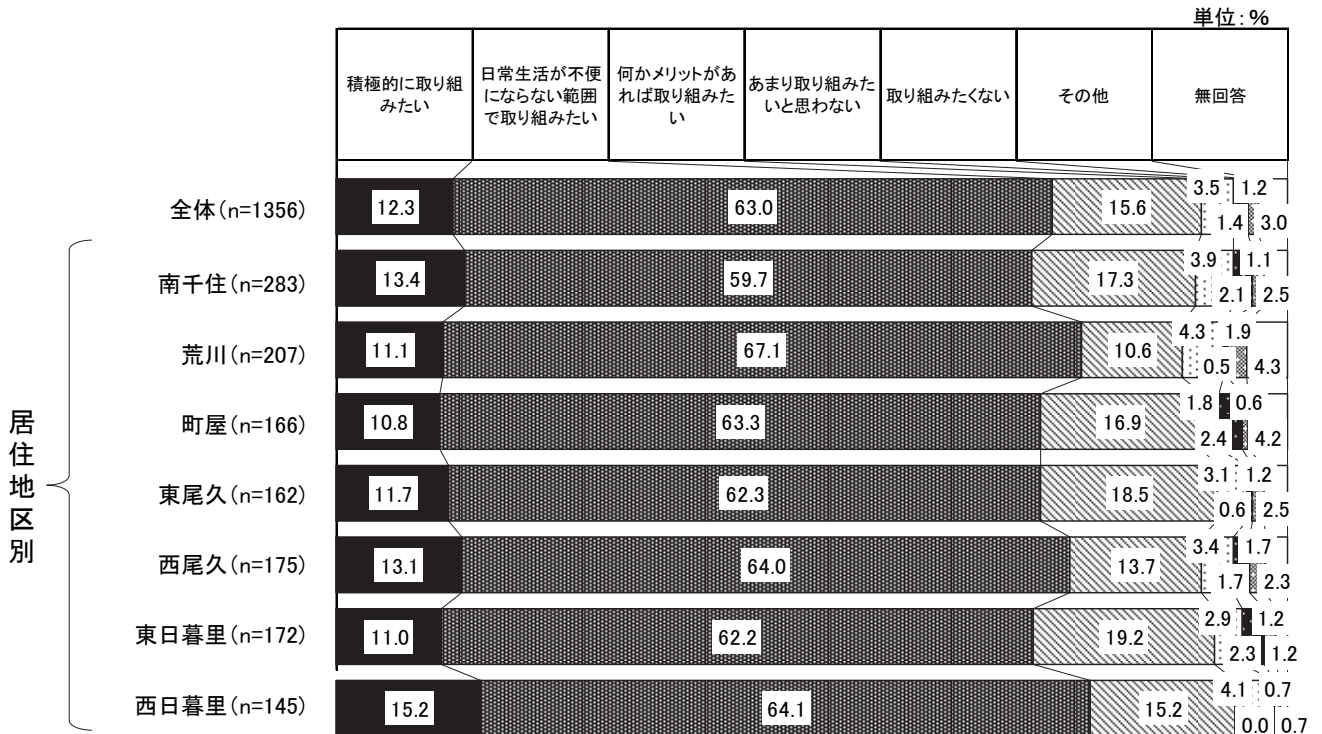
年代別でみると、「何かメリットがあれば取り組みたい」は、30～39歳（30.7%）が3割と高くなっている。

「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭での取組 年代別



居住地区別でみると、「日常生活が不便にならない範囲で取り組みたい」は荒川地区（67.1%）が6割半ばを超えている。

「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭での取組 居住地区別



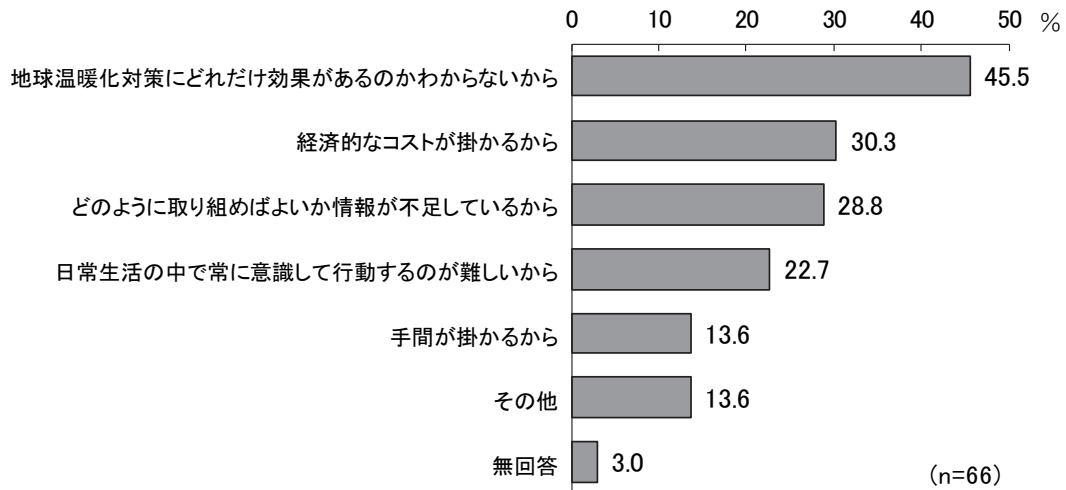
(6-1) 取り組みたいと思わない理由

◇「地球温暖化対策にどれだけ効果があるのかわからないから」が4割半ば

(問27で「4 あまり取り組みたいと思わない」「5 取り組みたくない」とお答えの方にお伺いします。)

問27-1 あなたが取り組みたいと思わない理由を、次の中からお選びください。

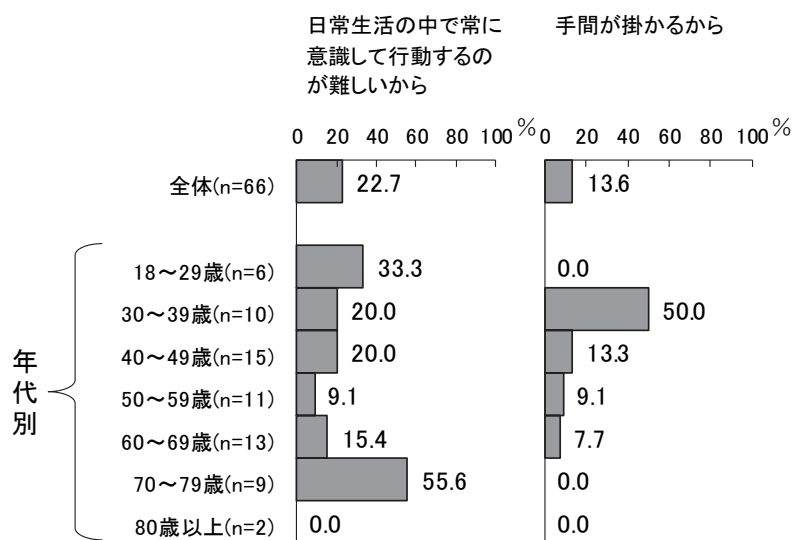
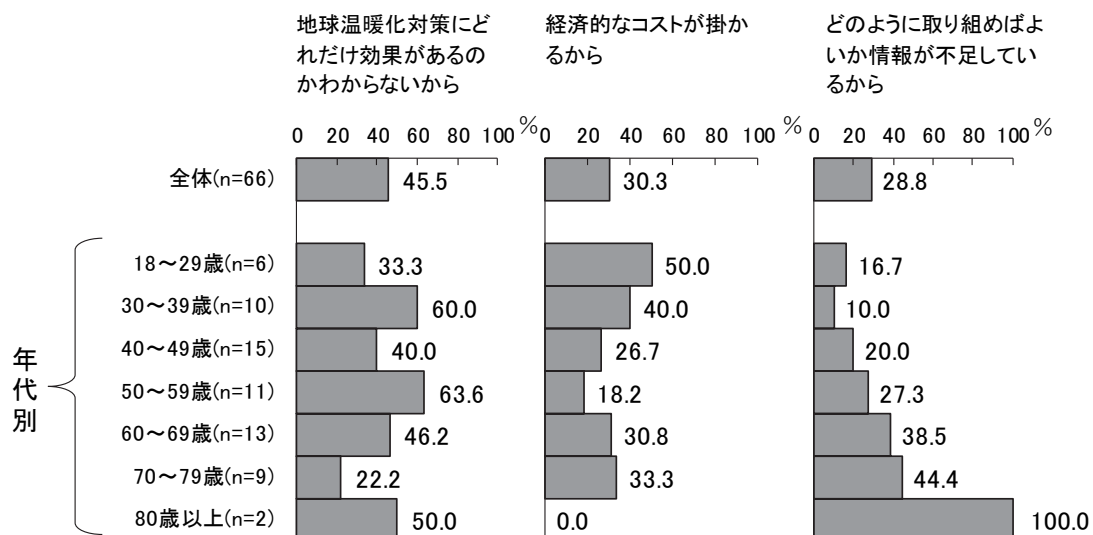
(○はいくつでも)



取り組みたいと思わない理由について聞いたところ、「地球温暖化対策にどれだけ効果があるのかわからないから」(45.5%)が4割半ばと最も高く、次いで「経済的なコストが掛かるから」(30.3%)が3割、「どのように取り組めばよいか情報が不足しているから」(28.8%)が3割近くとなっている。

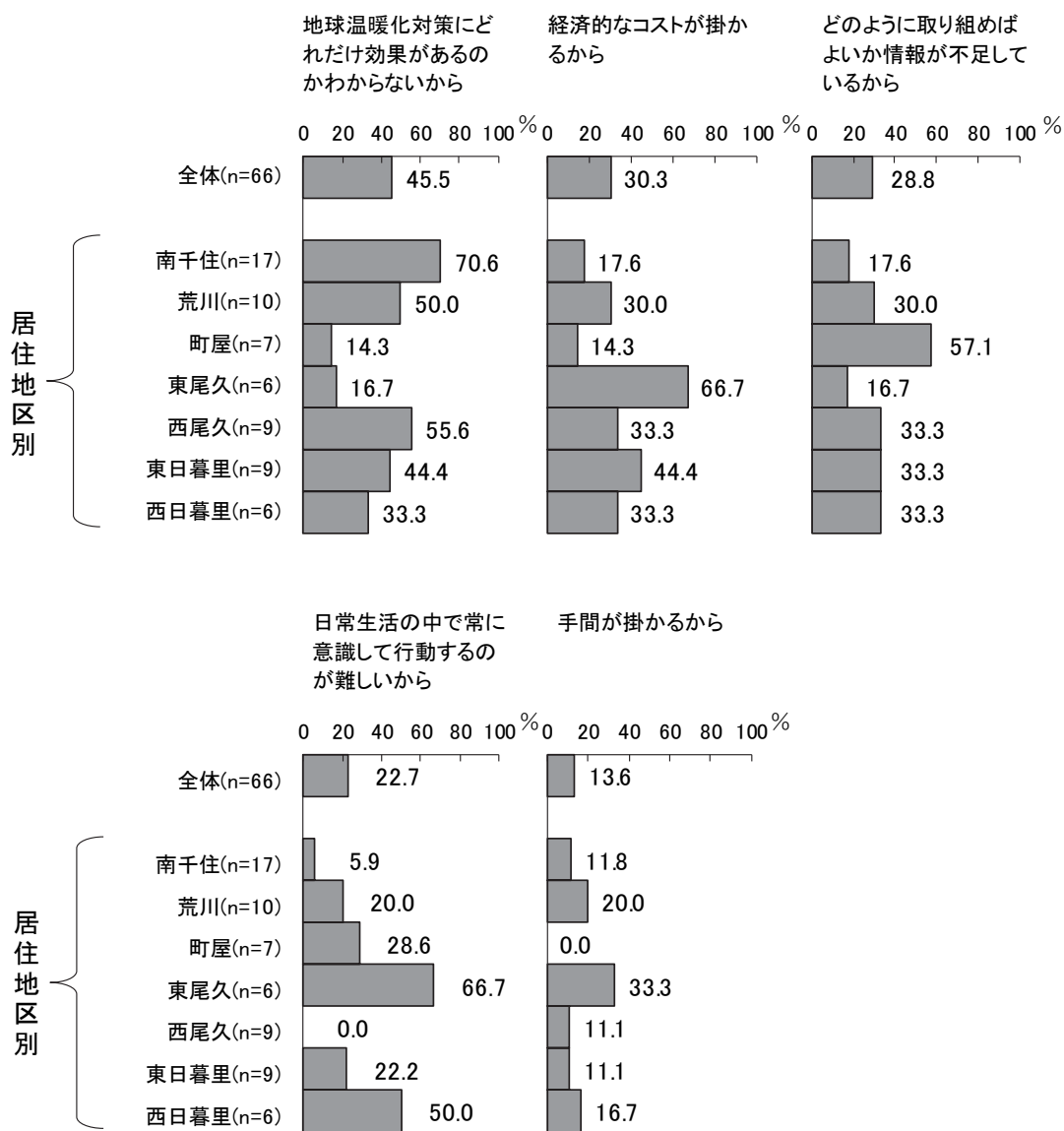
年代別でみると、「地球温暖化対策にどれだけ効果があるのかわからないから」は、30～39歳（60.0%）、50～59歳（63.6%）で6割以上と高くなっている。

取り組みたいと思わない理由 年代別



居住地区別でみると、「地球温暖化対策にどれだけ効果があるのかわからないから」は南千住地区(70.6%)で7割と最も高くなっている。また、「経済的なコストが掛かるから」は東尾久地区(66.7%)が6割半ばを超え、最も高くなっている。

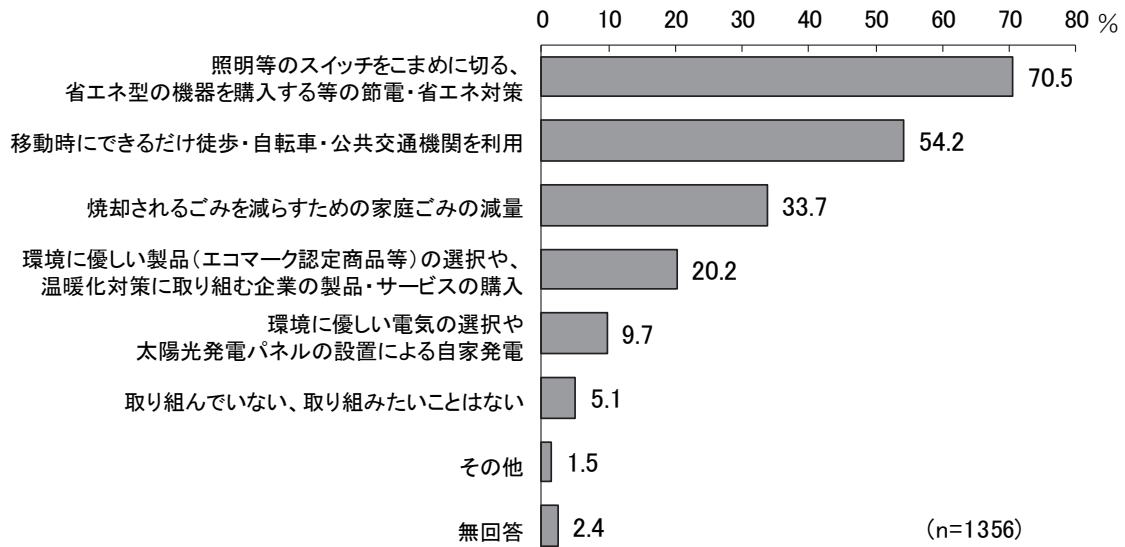
取り組みたいと思わない理由 居住地区別



(7) 「脱炭素社会」の実現に向けての取組

◇「照明等のスイッチをこまめに切る、省エネ型の機器を購入する等の節電・省エネ対策」が7割

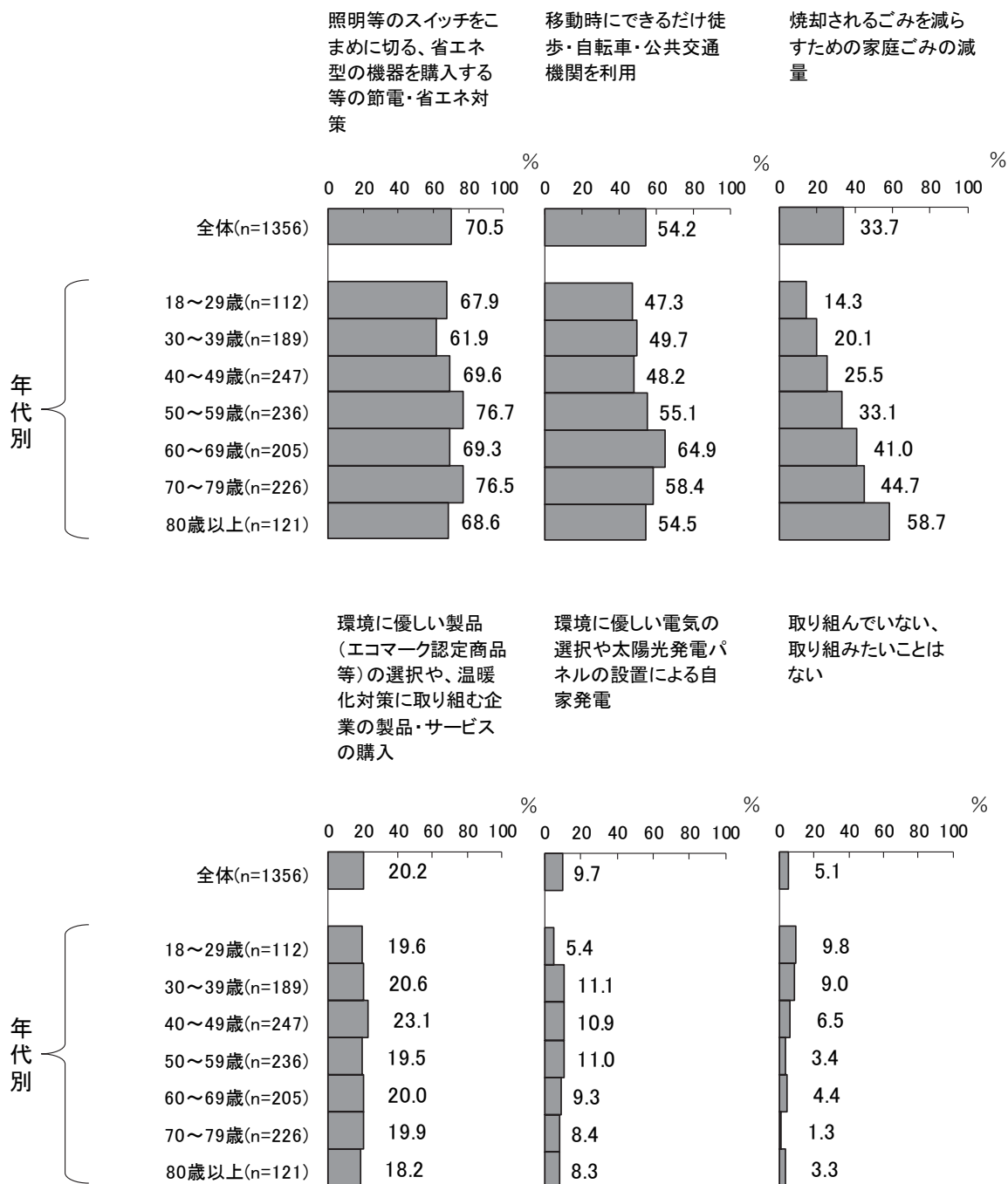
問 28 「脱炭素社会」の実現に向けて、あなたが日常生活の中で取り組んでいること、または今後取り組むことを検討していることは何ですか。(〇はいくつでも)



「脱炭素社会」の実現に向けての取組について聞いたところ、「照明等のスイッチをこまめに切る、省エネ型の機器を購入する等の節電・省エネ対策」(70.5%)が7割と最も高く、次いで「移動時にできるだけ徒歩・自転車・公共交通機関を利用」(54.2%)が5割半ば近く、「焼却されるごみを減らすための家庭ごみの減量」(33.7%)が3割半ば近くとなっている。

年代別でみると、「照明等のスイッチをこまめに切る、省エネ型の機器を購入する等の節電・省エネ対策」は、全ての年代で高く、50～59歳（76.7%）、70～79歳（76.5%）で7割半ばを超えて高くなっている。

「脱炭素社会」の実現に向けての取組 年代別



居住地区別でみると、「照明等のスイッチをこまめに切る、省エネ型の機器を購入する等の節電・省エネ対策」で西尾久地区（76.6%）7割半ばを超えている。

「脱炭素社会」の実現に向けての取組 居住地区別

